

# 21世紀に輝く白杵 新白杵港平成32年度開港！

## ～白杵市は人と物との交流拠点～



平成32年度に新しい白杵港が耐震型埠頭として1バース開港いたします。開港を迎えるための市内交通網を整備致します。

- ★下り松の急カーブをゆるやかに改良します。
- ★JR日豊線添いの県道の歩道を整備し道路幅を拡張します。
- ★白杵駅前交差点を拡大改良します。



**平成32年度新白杵港開港**

おかげさまで6期24年  
確かな実績、これからも



**23号**  
志村・学後援会だより  
編集 三水会  
発行責任者 志村・学後援会長 中村 敬一



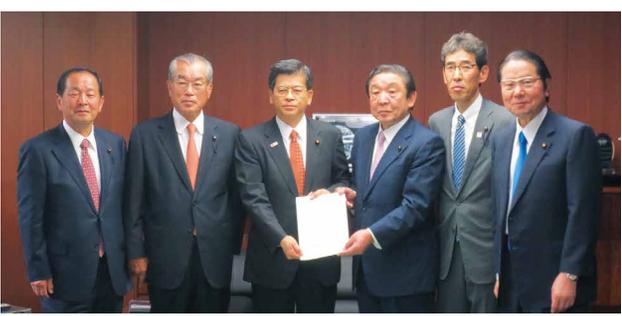
豊予海峡

大分市豊予海峡ルート調査業務<概要版>より

さらに、白杵駅前停車場線の抜本改良を目指し、「日本一安全安心な街づくり期成会」が、平成29年8月29日に発足し、特に掛町から平清水間の街並みと、振動・騒音対策を行う道路改良事業と、土橋交差点の渋滞対策に本格的に取り組めます。

都市計画道路「柳原線」は本丁工区の改良が進み、平成32年度に全線開通いたします。

対岸の四国愛媛県八幡浜市の新しい港（2バース）も平成32年度に開港することとなり、現在大分県中部振興局と愛媛県西予振興局との交流が促進されており、新しい白杵港にもぎわいのある「海の玄関口」となるべく、2つ目の埠頭建設に向け事業を継続するべく全力を尽くします。



石井啓一国土交通大臣へ要請

東九州自動車道（宮河内～白杵・津久見～佐伯間）は現在暫定2車線区間です。最近の混雑時は渋滞情報が増加して、交通量が片側が1車線であることから、万一の事故時や、救急車の通行にも支障が出ることを、また災害時での通行止めなど深刻な問題をかかえております。

そこで10月18日、国土交通省へ石井大臣、森事務次官、池田道路局長を訪問し、東九州自動車道の4車線化への熱い思いを直接訴えてまいりました。

### 東九州自動車道 4車線化へ

道の建設が必要であり、今年5月に国で制度化された、重要物流道路として、位置付けに向けた取り組みが急務であり全力で取り組めます。

完成の暁には、大分～北九州が31分、大分～鹿児島が77分、宮崎が48分となり、費用対効果（B/C）は50年間で1.0を超え、経済効果は九州全域で6兆円規模と見込まれる結果が試算されました。

このことを受け九州知事会でも、東九州新幹線を基本計画路線から整備計画路線への格上げへの決議を行いました。

大分市が中心となり、豊予ルートの実現に向けた共同調査が実施され、費用対効果（B/C）も複線での1.20～3.32となっており、経済波及効果も大分県は年118億円と試算され、その相乗効果が実証されました。着工すれば10年で完成との調査結果も昭和63年にすでに発表されております。

**21世紀の次代へ向けて**  
東九州の玄関口から 関西へそして関東へ  
新太平洋国土軸 豊予ルートの実現  
東九州新幹線の実現

本年9月の大分県議会と白杵市議会それぞれで協同事業として、工業団地までの進入道路事業費をそれぞれ約1.5億円の予算を議決し、事業化となりました。さあ、白杵市全市あげて念願の「企業誘致」を実現させようではありませんか。私も全力を尽くします。

一方大分県では、広瀬知事を先頭に九州知事会で議決された「東九州新幹線」の実現に向け、調査を開始いたしました。

私は、九州四国トンネル建設推進大分県議会議員連盟の会長として、実現への道筋をつけるべく全力を尽くします。

### 企業誘致を進めます

土へ、世界へ発信できる、生き生きとした、地方「大分」を実現できるようなすゝめ、今を生きる私共はその責務があると確信し、新太平洋国土軸豊予ルートの実現、東九州新幹線の実現に向け全力を尽くします。





今後の財政運営について

質問II 志村議員

平成28年度の普通会計決算見込みにおいては、経常収支比率が3年連続で上昇しているなど、安定的な県政運営ができるのか、不安感が拭えません。

今後の財政運営についての県の見解をお聞かせいただきたい。

答弁II 尾野総務部長

これまで行財政改革により標準財政規模の10%を目標に、財政調整用基金残高の確保に努め、今回の豪雨災害でも速やかな復旧・復興対策のため、機動的に取り崩し、活用したところであります。

他方、県内景気は、日銀大分支店によると、緩やかな回復基調を維持しているとしており、県税収入も3年連続1,200億円台を確保する見通しであります。平成31年度以降の一般財源総額については、国の方針が示されており、国の方針も、大変重要でした。

災害対策

質問II 志村議員

本年5月に豊後大野市朝

が、引き続き、行財政改革アクションプランに基づく行革の取組を徹底し、行財政基盤の強化を図ってまいります。

県は、昨年4月に発生した熊本地震における対応を検証し、災害情報を迅速に収集する体制の強化や、被災者支援の充実、支援物資の円滑な供給を三つの柱として、本年6月に県地域防災計画を修正しましたが、今後はどう生かしていくのか、知事のお考えをお聞かせいただきたい。

答弁II 広瀬知事

県議会では、発災後、状況の把握に努められ、また、被災地の様々な要望を聴取され、いろいろと御尽力いただいたことに厚く御礼を申し上げます。

平成29年9月県議会の要旨 自民党代表質問の要旨

県議会報告

熊本地震のときと違い、年度当初の訓練の成果もあって、県外からの自衛隊、警察、消防の皆さんを円滑に受け入れることができ、孤立地区の状況把握や生活支援、物資搬送、そして救急搬送等が迅速に行えたところであります。

三つの日本I

質問II 志村議員

子育て満足度日本一については、指標10項目のうち5項目で基準値よりも上昇し、11位となっております。健康寿命については、男

三水会だより

第23回となる三水会総会は9月8日(土)に会員102名が出席して開催された。

先ず浜田義之会長の挨拶に続いて、志村県議より平素の支援に対するお礼と議員としての活動報告がなされた。その後懇親会に入り約2時間にわたって県議と



会員、会員同士による懇談が行われ、盛会のうちに終了した。

志村県議野津後援会総会

8月18日(土) 野津中央公民館 久藤朝則自民党野津支部長の開会のことばに続き、後援会三嶋輝男会長による主催者挨拶、ご来賓の中野五郎市長、大嶋薫議長の挨拶を受け、志村学県議より県政報告があり、議会報告に続き地元に関係する事業、とりわけ農業農村整備事業

に力強さが感じられた。また、野津小郡の丘への企業誘致の話は熱い思いが感じられた。報告会の後、中島副会長の開宴の挨拶、関尾栄蘇の方々を励ますと、「阿蘇長陽大橋と大観峰の旅」を行いました。阿蘇神社の建物被害には驚きを禁じ得ませんでした。一刻も早い復旧復興を祈る気持ちでした。

なお、平成30年は11月21日に福岡県の「宗像神社」、熊本地震で被害にあった阿

日帰りバスの旅

平成28年5月11日(水) 平成29年10月26日(木) 平成29年5月11日に、九州自動車道全線開通を記念して、北九州經由で山口県下関の「功山寺」、「長府毛利邸」を巡りました。

平成29年10月26日には、熊本地震で被害にあった阿

大岩会

第22回を迎えた「大岩会」チャリティコンペが10月4日、135人が参加して臼杵CCで開催された。

先日まで天気予報では台風24号の影響もあって降雨が心配されましたが、

編集後記



広報紙「こころざし」は、平成26年8月に22号を特集号として発行して以来、これが4年ぶり。そうだった要因は、皆様も新聞の折込みでご承知かと思いますが、県議会の自民党県議団による「ふれあい」なるレポート(平成29年11月創刊、現在第5号)が発行されるようになり、その創刊号には、一面に「発刊によせて」という志村県議の一文が、そして2・3面には、平成29年9月の第3回定例県議会報告が、志村県議を始め他に数人の議員による一般質問の内容が記載されてお

り、さらに4面すべてには、志村県議の活動報告が詳しく載っておりますので、これを読んでいただければ志村県議が県議として地元のためにいかに活動しているかがわかると思います。しかし、「こころざし」には「ふれあい」とは別の面から載せた事柄もありますので「ふれあい」の記事と重複するところもありませんが、今回発行することになりました。(K・N記)

